

消したはずのライターから火が！

ライターは身近な道具ですが、事故も多く、取り扱いには注意が必要です。

相談 「使い捨てライターを使用し、バッグに入れていたら、内ポケットが焼けて穴があいた。ライターをバッグから出してテーブルに置いていたところ、購入して数回しか使用していないのに、数時間で液体ガスがなくなり空っぽになっていった。ガス漏れのせいでバッグの中で発火したのではないか。ライターに問題がないか、調べてほしい。」

消費者庁に寄せられるライター事故の原因で、最も多いのが「残り火」です。「残り火」とは、ライターの使用后、着火レバーから指をはなしても火が消えない状態のことをいいます。ほこりや繊維などの異物が入り込み、ライター内部に詰まることで、着火レバーが元に戻らず、微量のガスが漏れて残り火が発生するようです。事例の場合も残り火が原因だと思われるのですが、数回しか使っていないということから、本体に問題がある可能性も考えられたので、当センターから国

民生活センターに商品テストを依頼しました。

調査の結果、本体内部のゴムパッキンに金属やプラスチックの物質が付着していることがわかりました。これらの異物の付着により、残り火が発生したと判断されました。ゴムパッキンに外部から異物が混入する可能性は極めて低いことから、製造工程中に混入したものと考えられました。

以上の結果をライターの製造業者に説明したところ、不良品であったことを認め、バッグの購入代金が相談者に返金されました。

事例は本体に問題がありました。事故の多くは使用の過程で異物が入り込んだと報告されています。残り火対策として、異物が内部に入りにくく、着火口が塞がれているスライド式ライターが有効です。

ライターには消費者に向けた「警告表示」があります。表示をしっかり確認し、注意事項を守って、安全に使用しましょう。

消費生活センター(ステーションビル3階) ☎753・5555

健康相談

Q & A

池田市歯科医師会
http://www.ikedashi.jp/

Q 「入れ歯」のお手入れはしたほうがいいですか？

A 口の中にいる細菌が食べ物のカスや糖分を栄養源として、ネバネバのプラーク(歯垢)を作ります。

プラークはそのまま放置しておくと、虫歯の原因になり、唾液のカルシウムとも反応して、さらに硬い「歯石」となります。プラークは歯磨きで取り除くことができますが、歯石は歯磨きでは落とすことができません。



このプラークや歯石は、天然の歯だけではなく入れ歯にも発生します。歯磨きを毎食後に行う習慣が以前に比べて増えつつあるようですが、入れ歯を洗う習慣はあるでしょうか？ 入れ歯に付着したプラークは、そのまましておくといれ歯を劣化させるだけでなく、義歯性口内炎や、内臓疾患、呼吸器系の疾患の原因になる場合もあります。

汚れた入れ歯は、いやなニオイも発しますので、口臭の原因にもなります。食事のたびに使った食器をきれいに洗うように、入れ歯もきれいに洗って、いつも清潔に保ちましょう。

池田市歯科医師会